

過活動膀胱

過活動膀胱とは

2002 年パリで開催された国際尿禁制学会(ICS)で認められた新しい疾患名です。日本排尿機能学会によると、日本に過活動膀胱の潜在患者が830 万人いると推定されています。40 歳以上の12%、8 人に1 人という高率で発生し、年齢とともに有病率は高くなっております。

どんな症状？

過活動膀胱の症状は尿意切迫感(突然の尿意を感じ、がまんできなくなる)、頻尿、切迫性尿失禁(突然の尿意を感じ、尿をもらしてしまうこ



尿意切迫感

急に起こる抑えきれない
ほどの強い尿意。

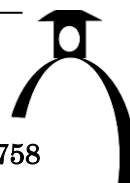


切迫性尿失禁

トイレまで間に合わず
漏らしてしまう。

頻尿

昼間・夜間に回数が
多いと感じる。



と)です。普通、健康な人は 300～500ml の尿をためることができますが、過活動膀胱では、少量の尿がたまると膀胱が収縮し尿意をもよおしがまんできなくなります。過活動膀胱は、膀胱が尿でいっぱいになる前に、膀胱が自分の意思に反して勝手に収縮し、尿失禁をおこすこともあります。

確認方法

排尿に関係した症状などで日常生活に支障がある場合、まず泌尿器科を受診しましょう。一般的に初診時に行われるのは問診です。どんな症状で困っているのかを具体的に伝えましょう。過活動膀胱かどうかを調べるための過活動膀胱スクリーニング質問票や、過活動膀胱の症状の程度を調べるための[過活動膀胱症状質問票\(OABSS\)](#)という簡単な質問票があります。これらの質問票が診断のために使われることがあります。問診以外には、膀胱の状態を調べるための検査を行うこともあります。排尿に関係した症状があるからといって、必ずしも過活動膀胱とは限りません。他の病気の可能性も含めて確認するための検査です。初診で行う検査は、主に、[腹部エコー検査](#)(残尿量の測定)、尿検査などです。これらは比較的簡単な検査です。不安がらずに早めに受診しましょう。

治療

生活習慣の訂正(水分摂取の制限、[カフェイン](#)の忌避)、膀胱訓練、[抗ムスカリン](#)(抗コリン)薬内服、低周波治療法があります。

最も即効性があり治療効果が高いのは[抗ムスカリン](#)(抗コリン)薬の内服です。